

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|--------------------------|------------|
| 事業所番号 | 0272100801 | |
| 法人名 | 社会福祉法人つくし会 | |
| 事業所名 | グループホーム百代ハウス | |
| 所在地 | 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字北浮田町字今須87-1 | |
| 自己評価作成日 | 平成22年10月11日 | 評価結果市町村受理日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=0272100801&SCD=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | |
|-------|---------------------------------------|--|
| 評価機関名 | 社団法人青森県老人福祉協会 | |
| 所在地 | 〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階 | |
| 訪問調査日 | 平成22年11月11日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域への外出への機会を多くしたり、また地域の小中高生の受け入れ等、地域との繋がりを大切にしている。
また、近所には三ヶ月に一度の広報誌を各家庭へ職員が直接配布し、地域との交流を図っている。
施設内は木材を多く使用し、落ち着く空間を演出している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームは元来自然に恵まれた場所に位置しているが、さらなる利用者の楽しみや生活の広がりのため法人のバックアップのもと遊歩道などの整備を進めている。ホーム内は、リビングをはじめ居室のドアなどに自然の木がふんだんに使われており、やすらぎやぬくもりが感じられるたたずまいとなっている。職員は利用者がホーム内に閉じこもらないように買い物やドライブ、見学などの外出に積極的に取り組んでおり、利用者の楽しみになっている。代表者、管理者、職員の風通しは良く、何でも気軽に相談できる関係にあり、ともに内外の意見に真摯に耳を傾け、利用者が活き活きと充実した日々を過ごしていただけるよう一丸となって取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を掲げ、朝礼にて唱和している。 | サービス提供の拠り所となるホーム独自の理念を掲げ、それを念頭に日々利用者を支援されているが、理念に地域密着サービスとして果たすべき役割が反映されていない。 | 利用者、家族、地域ニーズや事業所の果たすべき役割の変化を全職員で確認しあい、理念に地域密着サービスとしての役割を加味することに期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 当施設は敷地内の奥に位置しており、普段は近所の方々と会う機会が少ない。しかし、宵宮等地域の行事には参加している。また、三ヶ月に一度の広報発行時には地域の家を一軒一軒訪問し配布している。 | ホームの広報誌を周辺2つの町内へ出向いて配布したり、町内の祭りや近くの保育園へ出かけるなどされ、積極的に地域との交流を図っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 近隣の保育園との交流会や、地元の小学生の慰問、中学・高校生の職場体験等で理解を促している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議で自己評価・外部評価を説明し、意見を受け入れてサービス向上に努めている。また次回の会議では取り組んだ内容や結果を報告している。 | 運営推進会議の開催に当たっては全ての家族に開催日を伝え、無理のない範囲で参加していただいている。会議では行事や評価結果などを報告し、意見交換をされている。ホームではそれらの意見をサービスの向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 必要時、すぐに連絡は取り合っている。また2ヶ月に1回は運営推進会議で意見を交換している。 | 行政の担当者は、毎回、運営推進会議に参加されているほか、書類を提出するため窓口を訪れた時などにも、色々相談されたり、助言をいただいている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 勉強会を通じ、職員は身体拘束について、理解している。家族にはやむを得ずなければいけない場合があることを説明している。 | 研修会などを通じて、全職員が指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解されている。また、外出願望のある方に対しては一緒に出かけるなどの工夫を重ねながら、身体拘束をしないケアを日々実践されている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 資料を基に勉強会を行ない、虐待への理解、防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 資料を基に勉強会を行なっているが、現在制度を利用している方はいない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には十分に時間をとり説明している。その上で、契約を交わしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者からの意見はなじみの職員が話を聞き、家族へは契約時に説明し意見等を受け付ける投稿箱を設置している。意見については職員会議や本部会議にて検討し、改善に努めている。 | 日頃のかかわりの中で聴取された利用者の要望や、面会時や運営推進会議等を通じて吸い上げた家族の意見や提案は、ホームの会議で前向きに検討され運営に反映されている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 3ヶ月に1度個人面談を行い、意見や提案を聞き、改善に努めている。 | 職員は管理者との個人面談で気軽に意見や提案をされている。出された意見は、毎月開催される法人の全体会議にて管理者が報告している。代表者は現場の意見を真摯に受け止め、運営に反映されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職場内外の研修への参加により、やりがいを持てるよう、努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職場内外の研修への積極的な参加を促し、また研修の内容はなるべく職員の経験度に応じたものを選んでいく。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同地域のGH定期交流会や意見交換を実施し、サービス向上を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 職員は本人の状況等を把握した上で、意見や不安な事など聞くようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 必要に応じて、見学できるように支援している。その他の不安や困っている事等、話を聞きいれている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族の状況を見て、一番良いサービスを受けていただけるようケアマネを含め、検討している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 人生の先輩として敬いながら接している。分らない事は相談している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族と連携をとりながら、報告・連絡・相談を行っており、良い関係を築くようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族を招いての行事には馴染みの人達にも参加して頂くよう、協力を要請している。 | 併設のデイサービスの利用者等が訪れている。忘年会や併設施設と合同での大きな行事がある時などには、利用者の馴染みの知人・友人も誘って参加されるよう家族にお願いするなどし、馴染みの人との関係が途切れないよう支援されている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 孤独にならないように職員が支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | いつでも相談は受け付けている。また、その旨を退居時に説明している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式を用いて、本人の希望または家族の希望を聞き入れ、把握するよう努めている。 | 家族からの事前情報や、職員の日頃の観察から、言葉に出せない利用者の思いも含めて、一人ひとりの思いや生活に対する意向が把握され、記録されている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族、担当ケアマネ等に相談し、把握するようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日、バイタル測定、排泄、食事チェックを行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の意見を取り入れ、管理者、介護計画者、職員がケア会議にて検討している。また、定期的に見直しを行っている。 | 介護計画には本人、家族の意向が取り込まれた本人本位の内容となっている。また、定期的な見直しのほか、モニタリング結果に基づいて、随時、見直しをされている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 申し送りノートや業務日誌等に記入し、出勤時確認し、情報の共有に努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 通院、買物等の送迎、散髪の援助など行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 行事の際に地元の高校生にボランティアを頼んだり、消防職員を招いての消防訓練及び、各団体との連携、協力体制を築いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族の希望のかかりつけ医を利用出来る体制である。通院は職員が同行し、必要時家族へ報告している。 | 利用者、家族の希望する以前からのかかりつけ医に受診されているほか、希望があれば近くの協力病院に変更できるよう支援されている。通院に際しては、送迎、職員の付き添い等、個々に必要とする支援をされている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 併設施設の看護職員に協力していただき、気軽に相談できるようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院後は入院先の病院と連絡を取り合いながら、情報の交換や相談を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 家族の要望に出来るだけ応じた対応をしている。医師やケアマネ、家族、職員を交えて今後の対応を検討している。 | 利用時に重度化した場合の支援方法を説明されているが、文書で明記されていない。 | 重度化された場合の支援方法や、短期間の看取りが必要になった場合に備え、ホームとしてできる最大限の支援内容について重要事項説明書等に明記する取り組みに期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時を想定し、訓練を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災を想定した訓練により避難の方法は理解している。地域との協力体制は出来ており、非常食も準備している。 | 消防署の協力を得て定期的に火災訓練を行っている。また、訓練に地域住民は参加されていないが、町内会長を通じて災害が発生した場合の地域の支援をお願いしている。 | 地震発生に備え、訓練マニュアルを作成するとともに、それに基づいて訓練を行い、想定される全ての災害に備えることが望ましい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人を尊重し、言葉がけには十分に気を付けている。 | 利用者の呼び名については、本人と相談のうえ決めている。また、生活支援に際しての職員の接し方は丁寧で、誇りやプライバシーについて配慮されている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 個々人の性格や認知症の程度、職員との相性等を考慮し、自己決定を促している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人の生活スタイルを把握し接している。希望があればその都度対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 内外での服装、季節に合った服装に気を配っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と職員が一緒になって準備、片付けを行っている。誕生日には希望の食事を提供している。 | 利用者の希望に応じ、食事の下ごしらえから後片付けまで職員は一緒に行っている。また、昼食時には職員も利用者と同じ食事を和やかに食べている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 同法人の管理栄養士の立てた献立を元に作成している。また、量や好みなどを一覧表にしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 基本的には夕食後に行っているが、個々の状態を見ながら、毎食後にするなど必要なケアを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 毎日の排泄の記録をし、排泄パターンの把握に努めている。オムツの使用については必要かを会議にて検討している。 | 排泄誘導はさりげなく自然に行われている。職員は一人ひとりの力や排泄パターンを踏まえて排泄誘導され、おむつからリハビリパンツに移行するなど、排泄の自立に向けた支援をされている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | バランスのとれた食事の提供に努め、その他週3回乳酸菌を摂取できるように支援している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | 時間も曜日でも決まっているが、希望があれば対応するよう努めている。 | 入浴日を週2回と明示されているが、希望があれば入浴日以外でも入浴できる体制となっている。また、浴槽は利用者の重度化にも対応できる作りとなっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の睡眠パターンを把握し、眠れないときは状況に合わせて、適切な対応をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬情を個人のケースに綴じ、いつでも確認出来るようにしている。薬が変わった場合全職員に申し送っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人一人の得意・不得意を理解し、それに合わせた役割を持ってもらい、日々の生活に張りを持っていただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 施設の行事として、毎月ショッピングとドライブを行っている。その他希望があれば対応するよう努めている。 | 自然に恵まれた場所にホームがあるため利用者は希望に応じ屋外への散歩などを楽しまれている。また、ドライブなどの外出に積極的に取り組んでおり、利用者の楽しみになっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族と相談の上、個々に合わせた金銭管理が出来るよう支援している | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 職員が援助することで、電話をかけたり手紙を出したり出来ている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間に木材を多く使用した造りで、心地よさを演出している。また、間接照明を取り入れたり、季節の飾りを飾ったりしている。居室からは季節を感じれる花や木が植えられている。 | 共用空間には絵を飾ったり、装飾物を作って飾ったりしている。テレビのつけっぱなしなどがない様に職員間で対応ができています。屋外に犬や鶏を飼い、癒しの空間となるよう心配りされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 利用者同士が自由にくつろげる空間、共有できる空間、環境を確保している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家具等の持ち込みは基本的に自由である。本人や家族から意見を聞き、生活しやすいようにしている。 | 利用者は思い出の品々のほか、使い慣れたタンスや好みのじゅうたんなどを自由に持ち込み、テレビゲームを楽しむなどしながら、思い思いに過ごされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室・廊下には手すりを設置している。また、転倒の危険がある利用者の居室の工夫もしている。 | | |